

# 全国協議会 ニュース

2026年5月1日発行 第405号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髓バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和  
https://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

## 障害年金支援ネットワーク 研修セミナーで講演

「NPO 法人障害年金支援ネットワーク」のホームページを参照しますと、「私たち『障害年金支援ネットワーク』は、障害年金を受給できるのにもかかわらず、様々な理由で受給に至っていない人たちに適切な給付が行われるよう、2001年4月8日に社会保険労務士の有志によって結成された非営利団体です。以降、全国約250名の会員が情報交換をしながら、障害年金制度の普及のため、電話相談や広報等の活動を行っています。発足以来、11万件以上の相談を受け付けました。相談員は障害年金の専門家で、全てボランティアです」と紹介されています。

一昨年、ハンドブック「白血病と言われたら」の改訂第7版を作製するに当たり、「障害年金」の項目をアップデートする必要がある、私たちの編集委員には専門家がいいため、助けを求めてわらをもつかむ思いで、障害年金支援ネットワークに電話しました。事情を説明したところ、改訂に関わる編集作業について理事会での協議をい

ただいた結果、お手伝いいただけることになり、アップデート作業に加わっていただきました。その結果無事にハンドブック「白血病と言われたら」改訂第7版が完成しました。

そんなつながりから、障害年金支援ネットワーク内で開催される会員向け研修セミナーでの講師の要請をいただきました。白血病などの血液疾患の場合、外見からでは症状の様子が分らず障害年金の認定を受けるのが難しいとされています。また障害事由の中でも血液疾患は対象事案が少ないため、ネットワークに加盟している社会保険労務士の経験も少なく、具体的な白血病や血液疾患の理解を深めるための内部研修とのことで、喜んでお引き受けしました。

3月28日(土)、Zoomで開催された障害年金支援ネットワーク研修セミナーに講師として参加しました。

まずは基礎知識を知っていただくため、「白血病・造血幹細胞移植とその合併症」と題して北折健次郎副理事長

が医学的な側面で講演をし、梅田正造理事長が全国協議会の活動内容を説明しました。その後、骨髓移植を受け実際に障害年金の受給を個人で申請した患者さんからご自身の体験談を皆さんに話してもらいました。Zoom画面の向こうで60名を超える会員の方々が視聴されていたようです。視聴した方から「今後、患者様に対する支援を行うに当たりまして、さまざまな気付きとヒントを頂戴できましたことで、大変有意義な時間を過ごすことができました」とのお言葉もいただきました。

この研修セミナーで理解を深めていただき、今後、白血病などの血液疾患の障害認定にもお力を貸していただけることと思います。障害年金支援ネットワークの皆さま、ありがとうございました。(全国協議会理事 若木 換)



NPO 法人障害年金支援ネットワーク  
公式ホームページ  
https://www.syougainenkin-shien.com/

### 骨髓バンクとさい帯血バンクの最新情報

#### ● THE BANK NOW (速報値) ●

##### 骨髓バンク

###### ■ 日本骨髓バンクの現状(2026年3月末現在)

	2月	3月	現在数	累計数	
ドナー登録者数	1,716	1,707	564,155	1,025,371	
患者登録者数	165	212	1,721	73,358	
採取数	骨髓	41	44	—	27,648
	末梢血幹細胞	39	45	—	2,891
	合計	80	89	—	30,539

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

###### ■ 3月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／311人、献血併行型集団登録会／1,371人、集団登録会／0人、その他／15人

###### ■ 3月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,300人／20代 101,249人／30代 137,442人  
40代 205,350人／50代 115,814人

###### ■ 3月の20歳未満の登録者176人

注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

(MONTHLY JMDP(4月15日発行)より抜粋)

##### さい帯血バンク

###### ■ さい帯血保存公開本数 10,767本

(2026年3月末現在、国内6バンクの合計)

###### ■ 3月の移植件数 119件 (累計26,799件)

(日本赤十字社 骨髓バンク・さい帯血バンク ポータルサイトより抜粋)

### 2026 全国骨髓バンクボランティアの集い in 東京を開催します

今年は東京都に共催いただき、都庁内の「都民ホール」で開催します。東京都・日本赤十字社・日本骨髓バンクの活動報告の後、ゲストをお呼びして大谷貴子副会長がコーディネートし、造血幹細胞移植を受け過酷な治療に打ち勝ち、さらにアスリートとして活躍しているおふたりと、白血病を克服し血液内科医として在宅医療で輸血を含む患者支援を行う医師から「生きる」「支える」「つなぐ」など生き抜いた体験談を話していただきます。

#### 〈プログラム〉

日時：6月6日(土) 12:30開会(12:00開場)

場所：「都民ホール」(東京都庁議会棟1階)

入場無料・申込不要

【第一部】 式典

【第二部】 東京都・日本赤十字社・日本骨髓バンクからの活動報告

【第三部】 司会) 大谷貴子

\*造血幹細胞移植を受け復活したアスリートからの体験談

村崎誠 (世界移植者スポーツ大会パドミントン金メダリスト)

松岡一成 (3x3 プロバスケットボール選手)

\*在宅医療・輸血を含む血液疾患患者の支援

大橋晃太 (トータス往診クリニック院長)

【第四部】 和太鼓演奏 (西新宿小学校)

## 関東甲信越地区ブロックセミナー開催報告



4月11日(土)、千葉骨髄バンク推進連絡会主管の「2025年度 全国協議会関東甲信越地区ブロックセミナー」が千葉県船橋市勤労市民センター(第一会議室)で開催されました。東京の会から4名、神奈川の会から3名、埼玉の会から6名、千葉の会からは20名が参加されました。

各会代表より活動報告が行われた後、記念講演として、千葉大学病院輸血・細胞療法部長 血液内科准教授 三村尚也氏より、「CAR-T(カーティ)療法」についての講話をしていただきました。難治性白血病などに対して、以前は施す治療がない患者の場合でも、このCAR-T療法は、患者への負担が少ない為、一発逆転の可能性を秘めている画期的な治療法であることを知りました。一方、CAR-T療法の副作用や費用面を含めた今後の課題についてのお話もありました。このCAR-T療法で、以前であれば救うことができなかった尊い「命」が一人で

も多く救われることを切に願っております。その後、参加者一人ひとりから、自己紹介も兼ねて活動を始められたきっかけや、活動に対する思いなど発表がありました。他県との交流の場として、とても貴重な機会でした。各会、目指すゴールは同じでも、その活動内容にはそれぞれ会の特色があり、とても参考になりました。

セミナー後は、懇親会もあり、更に絆を深めることができました。今回のこのセミナーが、各会それぞれへの刺激となり、益々ご活躍されることで、その先、更に多くの方に骨髄バンクを知っていただき、登録者数が一人でも増えることを願っています。

(千葉骨髄バンク推進連絡会 相良 梢)

## AYA week 2026のご報告



15~39歳くらいの「AYA世代」。勉強、進学、恋愛、資格取得、就職、親からの独立、結婚、出産、子育てなど、ライフイベントの多いこの世代でがんになる方は、年間約2万人。この重要な時期を、がんとともに過ごしていくのは容易なことではありません。学びたい人が学び、働きたい人が働き、子どもを持ちたい人が子どもを持てるように、適切な支援が必要です。そんな「AYA世代がん」についての理解を深めようという啓発週間が、「AYA week」です。

AYA weekが始まったのは、コロナ禍の2021年で、その後毎年3月に行われ、AYA week 2026は、3月7日(土)から15日(日)に開催されました。AYA weekの運営を担っているのは、患者、サバイバー、一般市民、看護師、薬剤師、医師、教師、会社員、公務員、メディア関係者、学生など、さまざまな立場の人々からなる実行委員会です。

AYA week 2026の実行委員には、過去最高の82名の立候補があり、多

くの方が、ボランティアでこの活動を支えてくれました。実行委員は、いくつかのチームに分かれて、さまざまな活動に取り組みました。

「応援フラッグ」は、全国のさまざまな団体が、大きい布にメッセージなどを書き込んだ「フラッグ」を作り、それを取り囲む集合写真を撮影して応募するもので、全国45都道府県より176枚の写真が寄せられ、これをまとめた動画も公開されました。

「大交流会」は、3月7日(土)に開催され、東京会場63名、大阪会場40名、福岡会場34名、オンライン40名、合計177名が参加しました。各会場をつないだりレートークでは、2名ずつAYAがん経験者の想いを聞き、小グループに分かれての議論も行われました。

「がん教育」チームは、「学校だけじゃないがん教育」「子供も大人もがん教育」といったテーマを掲げ、より幅広く社会を対象に、がんについて自分事として考える企画を行いました。

今年初めて結成された「運動と栄養」チームでは、「運動とがん」「栄養とがん」に関する動画を40本以上作成して公開しました。「メディア」チームは、SNSなどを通じてAYA weekの活動や情報を社会に発信しました。

そのほか、企業からご支援いただけ

るように交渉する「渉外チーム」、クラウドファンディングなどを行う「ファンドレイジングチーム」、全国の活動への関心を高め、魅力を伝えられるように、いろんな「賞」を贈る「アワードチーム」、ホームページ、SNS、グッズなどのデザインを考える「デザインチーム」、いろんな活動に広くゆるく参加する「ゆるサポチーム」でも、多彩な活動が展開されました。

AYA weekは、全国の団体が主体となって取り組むことに主眼が置かれています。AYA week 2026では、全国71の団体にご参加いただき、関連イベントが41件行われました。

AYA week 2026のテーマは、「誰もが生きやすい明日へ～ともに考えよう、AYA世代とがん～」でした。がんであってもなくても、AYA世代であっても他の世代であっても、誰もが自分らしく生きられるような社会を創っていけるように、このテーマを設定しました。

AYA weekが始まって6回目となり、少しずつ裾野が広がっているのを感じていますが、まだまだ課題は山積しています。AYA week 2026が終わるとすぐに、AYA week 2027の準備が始まります。これからも、「誰もが生きやすい明日へ」向けて、ともに歩んでいきましょう!

(AYA week 2026 実行委員長 がん研有明病院 乳腺内科 高野利実)

# 慢性骨髄性白血病、断薬への道

第1回



佐賀大学医学部  
血液・呼吸器・腫瘍内科  
木村晋也

先月号(404号)で告知した木村晋也先生の連載がよいよ今号から始まります。3回に分けて掲載いたします。

私は、慢性骨髄性白血病(chronic myeloid leukemia; CML)の治療法改善をライフワークとしてきました。CMLの発症原因は、造血幹細胞において9番と22番染色体が相互転座することにより生じるフィラデルフィア(Ph)染色体です。これにより産生されるBCR::ABL蛋白に、エネルギー源であるアデノシン三リン酸(ATP)が結合すると「細胞よ、増えろ!」という命令が発せられ、白血球や血小板が際限なく増殖します。2001年にグリベック®(一般名:イマチニブ)が発売されるまで、CMLには有効な治療法がなく、造血幹細胞移植が成功しない限り、ほぼすべての患者さんが数年以内に亡くなる難病中の難病でした。

グリベック®は、鍵(ATP)がBCR::ABL蛋白の鍵穴(ATP結合部位)に入るのを、その身をもって先に鍵穴を防ぐことで邪魔します。グリベック®は、治験できわめて優れた効果を示し、過去最速で世界中で承認され、わずか2-3年で慢性期CMLの第一選択薬となりました。グリベック®は、「不治の病」であったCMLを「(ほぼ)死なない病気」としました。

2010年くらいまでは、CML患者さ

んに「グリベック®は、とてもよく効く薬で、ほぼCMLで死ぬことは無くなりました。でもとても高いお薬です。効果が続く限り一生飲んでください」と説明していました。高額療養費で減額されるにしても、毎月何万円もの負担が一生続くと考えると、憂うつになります。経済的な問題で、グリベック®が飲めない患者さんもおられ、NHKなどでも取り上げられていました。アメリカでは、CMLになってしまった患者さんに対してSecond Bad News(2番目の悪い知らせ)と言われていました。First Bad News(最初の悪い知らせ)はもちろん、「CMLになったこと」です。Second Bad Newsは、「効くけれど、とても高い薬を飲み続けなくてはいけないこと」でした。

グリベック®が良く効くことが分かってから、医師の興味は「グリベック®はいつか中止できるのか?」でした。しかし、グリベック®は再発の原因となる「白血病幹細胞」には効かないことが基礎研究で証明されました。この結果は、グリベック®でほとんどの白血病細胞は殺せても、白血病幹細胞は生き残る。そして薬を止めると白血病幹細胞が再び多くの白血病細胞を生み出して再発することを意味します。でも臨床医は、「良く効いている人では、グリベック®は断薬できるのではないか」という希望を捨てませんでした。しかしほとんどの医者は「いや、白血病幹細胞に効かないと分かっているグリベック®で、そんな無謀な



断薬をしたら世界中から非難される」と断薬の臨床試験には尻込みをしました。

この流れを変えたのは、フランスのグループでした。あるCMLの学会で、彼らは「グリベック®を断薬する臨床試験を開始する」と発表しました。学会場では「むちゃだ」「馬鹿げている」という声が多数でした。でも彼らは、勝ったのでした。グリベック®を飲んで、CMLの原因であるBCR::ABL遺伝子数が一定以下になった「深い分子遺伝学的寛解(deep molecular response; DMR)を2年以上維持した100人のCML患者さんで、臨床試験が開始されました。その結果は、なんと38%の患者さんがグリベック®断薬後4年間もグリベック®なしで再発しない「治療不要寛解(treatment free remission; TFR)」が持続したという驚くべきものでした。すると、「グリベック®の断薬試験(Stopping Imatinib; STIM)は、本当に素晴らしい研究だ」と称賛の嵐になりました。

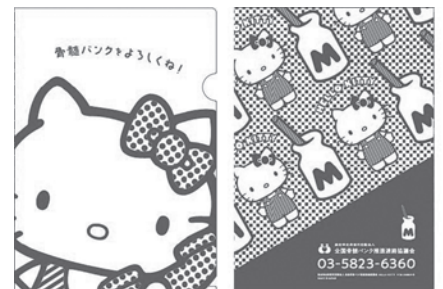
(次号に続きます。)

## 【新色登場】ハローキティ クリアファイルに「グリーン」が仲間入り

ハローキティデザインの啓発グッズとして、クリアファイルにこれまでのブルー、ピンクに加え、新色グリーンが登場しました。柔らかく明るい色調で、イベントの場でも取り入れやすい仕様となっています。親しみやすいデザインを通じ、さまざまな啓発の機会

でお役立ただいただければと考えております。

※当協議会の啓発グッズは骨髄バンク事業の啓発や患者支援活動を目的とした用途に限定して作成されています。啓発や患者支援以外の目的では使用できませんのでご了承ください。



クリアファイル(グリーン)

© '26 SANRIO CO., LTD. APPR. NO. L670702

# 各地のたより

各地のたよりを  
写真を添えて  
お寄せください。

大阪

## THE BANK 2026 での 献血・登録会



3月22日(日)は大阪・住之江にあるゴリラホールでのTHE BANK 2026 献血ドナー登録啓発 LIVE イベントでした。今年で4回目の恒例イベントとなりました。

LIVE 開始前から、スタッフの方、全国から来られたファンの方が献血会場へ足を運び、献血とドナー登録に参加されました。

献血受付では大阪府赤十字血液センターの職員さんがいつものように、「ドナー登録されていますか?」「次は骨髓バンクのお話を聞いてください」と対応されるので私たちは

説明業務に従事できます。とてもスムーズな動線で、ドナー登録希望者の取りこぼしがないようにという、血液センターの方のご協力とご理解には心から感謝いたします。

主催者の一般社団法人 SNOWBANK 代表 荒井善正さんの熱い呼びかけで次々に多くの方が集まってくださいました。LIVE が始めると、ステージ上でリアルタイムの献血者数とドナー登録者数をコール。数が増えたとバンドの皆さまのパフォーマンスとともに大盛り上がり。献血・ドナー登録された方にはステージ上での記念撮影、スペシャル記念品などご提供いただきました。

会場内では、合わせてスワブでのドナー登録受付も日本骨髓バンクの職員の方が対応していました。ドナー登録は28名、既に登録されている方も20名以上、スワブでのドナー登録は3名と、昨年よりは新規登録数は少なかったのですが若い皆さまがご参加くださることに感動し、こちらもパワーをいただきました!

(NPO 法人 関西骨髓バンク推進協会 浅野祐子)

神奈川

## ゴールドジム関東スクール 発表会で贈呈式



3月28日(土) チャリティーイベント ゴールドジムスクール発表会、「還暦スター誕生!」

2026 が、カルッツかわさき(川崎市スポーツ・文化総合センター)で開催されました。

参加者からの募金が骨髓バンクの推進・東日本大震災・熊本地震に寄付され、寄付先代表として贈呈式に出席しました。

セレモニーの後、挨拶をさせていただき、いただいた寄付は患者さん及びその家族への支援と骨髓バンクの推進に有効に使わせていただくと、まずは御礼を申し上げ、日ごろの骨髓バンクの推進及び当会活動へのご理解とご協力に対する謝意と一層のご支援をお願いしてまいりました。

当日は、ちいさな子どもから大人までの発表者とその関係者で会場は一杯となり、熱気にあふれていました。ステージではビートのきいた音楽に合わ

せ、子どもたちの可愛いダンスから若さみなぎる迫力あるダンス、スローなリズムに合わせた大人の雰囲気漂う優雅なダンスが披露された大きな拍手を浴びていました。

休憩をはさんで、還暦以上の方が歌やダンス、ボディメイクなどを披露する「還暦スター誕生!」のステージとなりました。超高齢者のカラオケによる演歌やニューミュージック、しなやかで優雅なフラダンス、ビートのきいたアップテンポの曲に合わせた迫力あるダンス、鍛え抜かれた体と動きのボディビルなどがあり、還暦とは思えないスター誕生にふさわしいステージでした。(全国協議会副理事長 村上忠雄)



「30歳で白血病となり2度の移植を経験。現在は自分らしく生きることが目標にお絵かきクリエイターとして活動中。」

### 心からのご寄付に感謝申し上げます ● 3月21日~4月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	北海道骨髓バンク推進協会募金箱	TRAILAR BURGER 99
中谷 哲郎 現金 12,000円	現金 17,506円	現金 5,551円
オークランド観光開発株式会社	匿名 現金 3,000円	有限会社アニメイトグリーン
松永尚忠 現金 10,000円	●募金箱	現金 19,721円
大橋 洋典 現金 10,000円	株式会社 クスリのアオキ	磯屋食堂 現金 13,094円
金寿司 現金 10,000円	株式会社 マルト商事	株式会社 洋伸 現金 3,646円
宇野 早苗 現金 3,000円	現金 29,690円	株式会社 コストレードアンドサービス
山村 詔一郎 現金 2,240円	株式会社 ナルックス	販売部 弊営業所 現金 3,948円
平山 誠 現金 1,073円	現金 10,665円	●つながる募金
匿名 現金 1,000円	株式会社 フクヤ現金 17,673円	現金 5,200円
●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	株式会社 THINK フィットネス	●キモチと。
北海道春待ちコンサート	現金 883,029円	現金 16,735円
ライラックの会 現金 160,000円	& SHEEP 現金 2,378円	●マンスリーサポート
現金 20,000円		現金 74,000円

### 活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会  
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。